

馬場ひでゆきの活動日誌

No.71



村なくして米なし

天明伸浩さんのお話会

うです。

もう一つは、農家の数が激減したことです。

今までは、小さい農家が水田の管理を丁寧にして米作りをしていました。しかし、政府は規模の拡大を促し、小さい農家を切り捨ててきました。そのため、大規模農家は増えましたが、規模が大きくなり、すべての田んぼに手が回らなくなっています。その結果、米の全体の収量も減ってきました。

●政府は政策の過ちを認めよ

この30年間、コメの値段は60キロ2万6千円から1万3千円に半値になってしまいました。運送業も介護労働もそうです。労働全体が買い叩かれる時代が30年続きました。

農業でも、どんどん農家が減りました。それでも、残った農家は頑張って米を作ってきました。収入が減って、使命感で作り続けているという感じです。

小泉農相は、「もっと安いコメを作れ」といいました。しかし、まずは長年努力を続けてきた農家の人たちを褒め、「今までの農政が間違っていた。これからは安心して米作りができる政策を打つ」と語るところから始めてほしかったです。

現在の日本社会は、安さばかりが重視され、真面目に働く人々が報われない状況が続いています。私自身、ダウン症の娘の誕生を通じて、「強さ」だけが価値とされる社会に疑問を持ちました。彼女との生活を続ける中で、弱い立場の人たちが幸せに暮らせる場所を作ることが必要だと思うようになりました。

●村なくして米なし

例えば、100ヘクタールの

農地を一つの経営体が行っている場合、農業に携わる人はとても少なくなります。しかし、100戸或いは10戸の農家が集まって、それぞれが半農半Xでもいい、他の仕事をしながら生計を立てるなら、多くの人たちが地域に暮らすことができます。人が集まれば、店もできるし学校もできる、災害が発生したときでも、多くの人たちがいることで地域を守ることができます。強い農村は、小さい農家がたくさん地域に集まることによってできあがるものだと思います。ところが、現在の政策は、地域から人を減らす方向に向かっていきます。一人でも多くの仲間が農業に携わる政策に変えてほしいです。そうしないと、あと5年10年経つと、農家がさらに激減し、子どももいなくなります。地域で暮らすことができなくなり、地域も農業も崩壊してしまいます。

●多様な人々を農村に取り込む

川谷集落は、私たちが移住した30年前は、まだ40代、50代の人たちがいて、村がにぎやかでした。現在は7戸、もともとの住人は2戸だけです。5戸は移住



参加者から「実家が農家で大変だった」という思いで話が續出して、盛り上がりしました。

8月3日、市民プラザで吉川区在住の百姓、天明伸浩さんが、「令和の百姓一揆の想い」農家と消費者を守る農業とは」と題してお話をされました（新日本婦人の会上越支部の主催）ので紹介します。

●米不足の原因は農家の激減

昨年の7月頃から、私の農場に米の注文が毎日のようにきました。米が都会では不足している実感しました。

米不足の原因の一つは、気候変動です。雨が降らない日が続くと、天水田は大変です。高温によって米の質が変わり、精米の歩留まりが悪化しています。昨年、関東ではカメムシによる被害が大きく、田んぼによっては、収穫が通常の半分だったそ

者やUターンの人です。

集落が移住者の受入れをして10年以上になります。集落の住民の平均年齢は50歳と若くなりました。みんなで協力しながら、小さい田んぼを分け合い、他の収入を組み合わせて地域で暮らす仲間を増やす取り組みをしています。

移住者も多様です。最近では、テレワークの普及により、地元に住んでいても、リモートで都会の仕事ができるようになりました。農業をしながら都会の仕事をして農村に暮らすことが可能になりました。こういう新しい生活スタイルの人たちをこれから取り込んでいきたいです。

●百姓一揆への思い

3月に東京で実施した百姓一揆のときは、農村が大変だということ訴えるいい機会だと思いい、「村なくしてコメはなし」というプラカードをもって参加しました。

ところが、6月に長岡市内で実施した「新潟百姓一揆」の頃になると、既に備蓄米が放出され、それでも米が足りない時は輸入すればよいとか、国もコストを下げて耕作する農家を重点的に応援するという雰囲気になってきました。

ここで声を挙げておかないと農村が消失してしまう方向に舵を切られるのではないかと強く

い危機感を持って参加しました。みんなで地域に暮らしていきける仕組みをこれからも考えていきたいと思っています。

●天明伸浩さん。1969年東京生まれ。大学在学中に農民作家山下惣一の『いま、米について』を読み農民を志しました。大潟区の平澤栄一さんの経営する朝日池総合農場での農業実習を経て、95年に吉川区川谷に移住して農業に従事、現在に至ります。

天明さんのお話を聞いて

私は、小さい農家を育てるべきとの天明さんのお話に大賛成です。

天明さんのお話のとおり、政府は生産効率を上げるために、農地の集積、農家の規模の拡大を推し進めてきました。

生産性を上げることは大事なことです、それを突き詰めること、条件の悪い中山間地の農地は敬遠されてしまっています。

しかし、日本の農地の40%は中山間地にあります。これを放置して、日本全体の米の需要を賄えるのかどうかは疑問です。これからは、気候変動で食糧不足がいつ生じてもおかしくありません。既存の農地を大切にしてい、いろいろなタイプの人が農業生産に参入できるように仕組みを作り出すべきと考えます。

また、晴れの日が続く。遠くスペインでは熱波到来で、山火事が相次ぐ。間違いなく地球温暖化の影響だ。

鳴谷さん(日誌56, 69に登場)

は、フェイスブックに「農家の実感としては、食糧難とか飢餓が普通に近づいていると思う」と書いている。同感だ。だけど、温暖化は一市民ではなにも解決できない地球的課題だ。そうしたらどうする?

せめて、まさかの時のために自給自足の手段を準備しておくことが必要だ。いろいろな人たちが農業に従事し、自然と共生して生活するのが、

地道な食糧安全保障に繋がるはず。

天明さんの話をもう一度かみしめる。



7月26日～8月15日

●7月26日 三和区越柳でため池、田圃視察

●27日 浦川原区月影地区の天水田視察(左のイラスト)



この日は、とても暑かった(イラストは橋爪法一さん)。

●28日 県道新井柿崎線現地視察、要望会

●29日 潟川改修期成同盟会総会(頸城区・ユートピアくびき希望館)

●31日 県議会・常任委員会(私は今年度、建設公安委員会に所属することになりました)

●31日 県道柳島信濃坂線改良促進期成同盟会総会(牧区・割烹新柳)

●31日 上越地区労連納涼会(ミライザカ上越高田店)

●8月1日 県病院局「松代病院の入院機能の十日町病院への統合(無床診療所化)」について」の説明会(大島区・大島コミュニティプラザ)

●8月3日 新日本婦人の会上越支部、農業学習会「令和の百姓一揆への想い」(市民プラザ)

●8月6日 定時制通信制教育振興会評議員会(南城高等学校)

●8月7日 農協OBの集まりでお話会(三和区・飯田屋)

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-bahahideyuki@wind.ocn.ne.jp